唱歌遊戯の成立過程に関する研究： 『雅楽録』にみられる「保育唱歌」の作成過程から

曾我 芳枝

Yoshie Soga : Study on the Creation Process of “Singing Dance” Writing process of *Hoiku-shoka* (Childcare songs) found in the *Gagaku-roku* (The Official Documents of Japanese Imperial Court Music). Japan J. Phys. Educ. Hlth. Sport Sci. 53 : 297-313, May 2008.

Abstract : It is thought that the “singing dance”, a childcare technique advocated by Fröbel, was first performed in Japan at Tokyo Women’s Normal School Kindergarten, which was opened in 1876 (9th year of the Meiji era). The part played in its introduction by Clara Matsuno, the first senior kindergartner, Fuyu Toyoda, Hama Kondo and others was clearly recorded, but there has been little study of the role played by the *Reijin* (musicians) belonging to the *Gakubu* (Japanese Imperial Court Music Department), Board of Ceremonies, Imperial Household Ministry, to whom composition of *Hoiku-shoka* (childcare songs) was requested, especially in relation to “singing dance”.

In this study, the author attempted to clarify the creation process of the *Hoiku-shoka* by reference to the *Gagaku-roku* (The Official Document Of Japanese Imperial Court Music), preserved at the *Gagaku-ka* (Japanese Imperial Court Music Section) and *Shoryobu* (Archives and Mausoleum Department, Imperial Household Agency).

The research revealed the following facts:

1. Creation process of *Hoiku-shoka*

- 1) Teaching place, schedule, honoraries to the *Reijin*
- 2) There was selection examination for the songs chosen (composed) by Hama Kondo, a kindergartner.
- 3) There was a plan to publish the *Hoiku-shoka*, but its realization took a long time.

2. Introducing process of “singing dance”

- 1) The concerned *Reijin* not only composed but also choreographed *Tamigusa*.
- 2) *Shinado-no-kaze* (Wind of Shinado) was originally a “singing dance”.
- 3) At the *Gakubu-daienshukai* (Great recital of dance and music) held on 30th and 31st October, 1880 (13th year of Meiji), the *Gagaku-ka* was thought to have organized a performance of *Hoiku-shoka* by the students of Tokyo Women’s Normal School and the children of its kindergarten.

These findings clarify the contribution of the *Reijin* of the *Gagaku-ka* to modernization of kindergarten education early in the Meiji era by not only selection of the *Hoiku-shoka* but also its involvement in choreography of the “singing dance” and its teaching.

Key words : early in the Meiji era, playing education, kindergarten

キーワード：明治初期，遊戯教育，幼稚園

1 はじめに

わが国の学校における遊戯教育は、1874（明治7）年の伊澤修二によるフレーベルの思想に基づいた唱歌遊戯がはじまりとされている^{注1）}。しかし、

組織的にフレーベル主義の保育内容として唱歌遊戯が指導されたのは1876（明治9）年11月16日に開園した東京女子師範学校附属幼稚園においてであった。そこでは唱歌遊戯は「保育唱歌」の中の遊戯として指導された。その導入に際して初代首席保母であった松野クララや保母の豊田英雄・

近藤濱らが関与したことについては倉橋惣三・新庄よし子共著の『日本幼稚園史』1934（昭和9）年に詳しい。それによると、唱歌遊戯はロンゲ著・桑田親五訳『幼稚園』1876（明治9）年～1878（明治11）年やダウエイ著・関信三訳『幼稚園記』^{注2）}1876（明治9）年～1877（明治10）年等に掲載されていた作品の中から保母らを選び出し、その題目に合わせた歌詞を作ったとされている（倉橋・新庄，1934）。そして当時東京女子師範学校の摂理（校長に当る一筆者）であった中村正直の「唱歌は女子教育と幼稚園の保育には貴重な教科である」^{注3）}という見識により歌曲の撰譜（作曲の意一筆者）を宮内省式部職楽部の伶人（雅楽を奏する人の意一筆者）たちに依頼した経緯がある。当時伶人たちによってつくられた「保育唱歌」は約100曲あり、その中で約13曲が遊戯を伴う唱歌である。これらの保育唱歌及び唱歌遊戯に関する先行研究には、白川蓉子「明治期における『唱歌』と体操科『遊戯』の特質」1975（昭和50）年、藤田芙美子「保育唱歌研究－フレーベル式幼稚園唱歌遊戯移入の経過を中心として－」1978（昭和53）年、外山友子「幼稚園唱歌事始」1978（昭和53）年、伊吹山真帆子「保育唱歌について」1979（昭和54）年、今井民子「フレーベルの歌遊び－その特質とわが国の幼児音楽教育に及ぼした影響について－」1981（昭和56）年等の論文がある。白川は唱歌と遊戯についてその成立期の特質を述べ、雅楽系統の唱歌を芝祐泰の覚え書きである「保育並遊戯唱歌の撰譜」を参考にしながら明らかにしている。藤田は、発表されていた「保育唱歌」の楽譜及び歌詞集（平出，1943）・（芝，1956）と原曲を比較対照して、「保育唱歌」の全容を明らかにした。外山は、東京女子師範学校附属幼稚園の開園当初の「保育唱歌」の唱歌及び遊戯に関する実状を明らかにした。また、伊吹山は、日本で最初に作られた唱歌集はどのようなものであったかについて考察し、フレーベルの教育理論は「保育唱歌」に取り入れられていたのかについて述べている。伊吹山によれば「保育唱歌」は音楽的分析では西洋音楽を取り入れたところはなく、西洋音階による唱歌とは異なるものである

と述べながらも、フレーベルの理論にある開誘歌や四季の曲、遊戯の曲が選ばれていることから、フレーベルの理論に忠実に選ばれていると断言している（伊吹山，1979）。そして今井は、とくにフレーベルの歌遊びに注目し、外国幼稚園指導書と「保育唱歌」の関係をまとめている。今井は欧米における代表的なフレーベルの後継者たちの著書と我が国の唱歌遊戯の関係をまとめ、その上で「保育唱歌」の遊戯にはフレーベルの遊戯と同一のものもあるが、欧米の伝統遊びが新たに加わっていると述べている（今井，1981）。これらの先行研究によって保育唱歌の全容がほぼ明らかになってきている。

しかし、作曲を依頼された太政官式部寮雅楽課の伶人たちが果たした役割についての研究はあまり多くなく、雅楽研究家平出久雄^{注4）}の『『保育唱歌』覚え書』1943（昭和18）年、代々雅楽を受け継いできた芝祐夏の子息であり元宮内庁楽長であった芝祐泰^{注5）}の「保育並遊戯唱歌の撰譜」1976（昭和51）年、そして音楽研究家である中村理平^{注6）}の「洋楽導入者の軌跡－日本近代洋楽史序説－」1993（平成5）年があるだけである。平出は芝論文に先行して、「保育唱歌」を楽家の蔵書整理中に発見された資料からまとめたことを記している。芝は、伶人たちが「保育唱歌」作成に取り組んだ過程を、主として宮内庁所蔵の公文書と芝家蔵の「保育唱歌」写本を基に記している。そして中村は、第6章で東京女子師範学校附属幼稚園首席保母であった松野クララと「保育唱歌」を作成した伶人たちとの関係について『雅楽録』を資料として述べている。それによると、松野クララは1879（明治12）年3月から1881（明治14）年6月まで雅楽課の伶人たちにピアノの指導をしていたことが記されている。

前述した保育唱歌及び唱歌遊戯の研究（白川，藤田，外山，伊吹山，今井）は主として平出、芝両氏の論文資料を元に考察を行なっている。その理由は、宮内庁式部職楽部の公文書は2001（平成13）年3月までは原則として公開されておらず^{注7）}、雅楽課と個人的な関係があったか、あるいは当時の伶人の日記等を見ることが出来た平出、

芝等からの二次資料で考察せざるを得なかったことにあると思われる。したがってこれまで公文書である『雅楽録』について詳しく検討した研究は見当たらない。

しかし最近、情報公開法により一般公開されるようになった宮内庁書陵部に所蔵されている『雅楽録』の「保育唱歌」に関する公文書を閲覧することができるようになった。そこで本稿はこの『雅楽録』に記載された内容を検討し、これまで十分に明らかにされていなかった唱歌遊戲の成立に関して雅楽課がどのような役割を果たしたかについて考察を行った。研究の手順としては、まず『雅楽録』から「保育唱歌」の作成に関する文書を抜き出し、その記事内容を分析することによって唱歌遊戲の作成に雅楽課が果たした役割を明らかにすることにつとめた。これによって、日本における唱歌遊戲の初期の段階について新しい知見が得られることを期待した。

II 先行研究による「保育唱歌」作成過程の概要

はじめに、「保育唱歌」作成過程に関して、これまで先行研究で明らかにされているところを概観しておく。

1. 撰譜依頼の経緯

雅楽は、日本の古典芸能のなかでも最も伝統があり古くから継承されている文化である。それは飛鳥・奈良・平安時代にわが国で古代アジアの音楽と舞踊を取り入れ雅楽として実らせ、千年以上の歳月を経て楽人や舞人により受け継がれてきたものである（上田，2004）。そして明治維新により王政復古となったとき1870（明治3）年に宮内省に雅楽局が設置され、それまで置かれていた京都・奈良・天王寺・紅葉山（江戸）の楽所から楽人が一同に集められ、1871（明治4）年宮内省式部寮雅楽課が組織された。

東京女子師範学校の摂理であった中村正直は、なぜこの伝統音楽を継承してきた宮内省式部寮雅楽課へ「保育唱歌」の撰譜（作曲のこと―筆者）

の依頼をしたのであろうか。それは、芝の論文で次のような経緯が明らかにされている（芝，1956）。すなわち、雅楽課では明治になり伶人たちにとって先進国である西洋の音楽（欧州楽と当時は言っていた―筆者）を伝習する事が急務となり、千数百年以上続いた雅楽伝習を行うとともに海軍省で軍楽隊から洋楽伝習を受けていたことによるものと考えられる。その当事海軍省軍楽隊は雅楽課の伶人たちに先駆けて西洋人から吹奏楽を学んでいたため、1874（明治7）年に宮内省で欧州楽伝習の議が決するや否や伶人たちは海軍省軍楽隊について吹奏楽の指導を受けることになった。その時の事情について芝は次のように述べている。「流石に千年来音律の中に育ってきた楽家の真髓を發揮して、頗る短時日の向に洋楽器駆使の實を挙げ、明治九年十一月三日の明治天長節に古例の舞樂に代へて歐洲吹奏樂を公式宴會に奏し得たのであった。」（芝，1956, pp. 6-7）と述べている。式部寮雅楽課の伶人たちは、その才能と意気込みによって新しい時代に素早く対応していたようである。このような事情により、中村正直は既に欧州楽を学んでいた伶人たちの式部寮雅楽課に保育の目的に合った新しい歌の撰譜を依頼したのである。この点は、資料に基づいて芝が叙述している。

2. 「保育唱歌」作成過程についての従来の見解

次に「保育唱歌」の作成過程についての従来の見解を述べていく。

「保育唱歌」の歌詞は大きく分けて四つの方法でつくられた。一つは保母であった豊田英雄や近藤濱らが翻訳書にある原詩の直訳された歌詞を歌い易く作り直したもの。二つ目は、彼女らが西洋原歌の歌詞を意識したもの。三つ目は西洋原歌の歌詞の内容に近いものを万葉集や古今集などの日本の古歌から選んだもの。四つ目は保母たちが自ら作詩したものである。曲は、宮内省式部寮楽部の伶人たちによって1877（明治10）年から1883（明治16）年ごろにわたって撰譜された。曲の指導に関しては、保母たちが事前に伶人の指導を受けて正確に歌えるようにし、それから保育の場で幼児に教えたのであろうといわれている。遊戲に

については保母たちが翻訳された内容にそって指導したようである(倉橋・新庄, 1934, pp. 230-334). 前述したように, 伶人たちによって作られた「保育唱歌」は, 100 曲以上あり, その中で約 13 曲が遊戯を伴う唱歌である.

III 『雅楽録』の「保育唱歌」関係文書

次に『雅楽録』に記されている「保育唱歌」作成過程を示す文書について検討していく.

1. 「保育唱歌」関係文書の年次別変化

「保育唱歌」関係文書の年次別変化について見ていく. 宮内庁書陵部に保管されている『雅楽録』は 1872 (明治 5) 年から 1961 (昭和 36) 年までのものがあり, 合計すると 49 冊が保管されている.

『雅楽録』の冊数表

雅楽録 式部職楽部 1872 (明治 5) 年, 1877 (明治 10) 年合冊…1 冊

雅楽録 式部職楽部 1877 (明治 10) 年～1909 (明治 42) 年 …43 冊

雅楽録 式部職楽部 1911 (明治 44) 年…1 冊

雅楽録 追加の部 1 式部職楽部 1883 (明治 16) 年～1942 (昭和 17) 年…1 冊

雅楽録 追加の部 3 式部職楽部 1905 (明治 38) 年～1930 (昭和 5) 年…1 冊

雅楽録 追加の部 4 式部職楽部 1910 (明治 43) 年～1932 (昭和 7) 年…1 冊

雅楽録 追加の部 5 式部職楽部 1912 (明治 45) 年～1961 (昭和 36) 年…1 冊

それぞれ B5 サイズの大きさであり, 和紙で約 160 枚, 厚さは 4～5cm であった. この中で本研究の「保育唱歌」作成過程に関係があるとみられる 1877 (明治 10) 年から 1883 (明治 16) 年頃の『雅楽録』は合計すると 13 冊ある. 更に「保育唱歌」の作成過程を示す文書を抜き出した結果, 1877 (明治 10) 年 4 件 [雅楽録登録第 11354 号], 1878 (明治 11) 年 8 件 [雅楽録登録第 11355 号], 1879 (明治 12) 年 10 件 [雅楽録登録第 11356 号], 1880 (明治 13) 年 10 件 [雅楽録登録第 11357 号],

1881 (明治 14) 年 5 件 [雅楽録登録第 11358 号], 1882 (明治 15) 年 1 件 [雅楽録登録第 11359 号], 1883 (明治 16) 年 4 件 [雅楽録登録第 11360 号] と, 合わせて 42 件であった. このことから, 1878 (明治 11) 年, 1879 (明治 12) 年, 1880 (明治 13) 年は「保育唱歌」の作成に本格的に取り組んだ時期にあたり, 雅楽課が積極的に取り組んでいたときであったと推察される.

この中で注目すべき点は, 1880 (明治 13) 年の文書 10 件のうち 9 件が 6 月までのものであったことである. その理由として考えられるのは, この時期は本稿末の表 2 [雅楽課に関する参考年表] に示した様に伊澤修二が 1878 (明治 11) 年 5 月にアメリカ留学から帰国し, 翌 1879 (明治 12) 年 10 月文部省に音楽取調掛が設置された時期と重なっていて, 音楽教育が雅楽調の唱歌から西洋音楽に基づくものへと移行する時期であったことが挙げられよう. これ以降「保育唱歌」に関する文書は減少していく. しかし, それも一挙に移行したのではない. このころから伶人のなかの数人は^{注 8)}音楽取調掛を兼務するようになっていることをみると, 1881 (明治 14) 年以降もまだ音楽教育において日本古来の音楽技法所有者の活動が続いていたことが考えられる.

2. 伶人たちによる保母への唱歌指導

資料 1, 文書番号 5・1878 (明治 11) 年 2 月 23 日「日課奏楽ノ為幼稚園保母稽古所へ来所ノ件」にみられるように伶人たちは保母に保育唱歌の指導を行っていた事実がある.

「文書番号 5

[明治十一年二月廿三日

来ル廿六日, 日課奏楽為聴聞幼稚園保母拾二三名稽古所へ相越度旨, 打合有之候ニ付, 差聞之旨相答置候, 此段御届申置候也] 雅楽録, 1878 (明治 11) 年 2 月 23 日]

このように保母十数人が雅楽稽古所に出向いて伶人たちから保育唱歌の指導を受けていたことがわかる. 伶人たちの指導はさらに広げられ, 文書番号 7・1878 (明治 11) 年 9 月 12 日にみられるように同年 9 月以降伶人たちは東京女子師範学校に

表1 『雅楽録』に見られる「保育唱歌」の作成過程関係文書一覧

文書番号	日付	号	記事	備考
1	1877 年 M10.11.13	6	皇后宮東京女子師範学校行啓ノ節演奏ノ歌曲伝授 ノ為伶員派遣願ノ件	式→幼 (中村)
2	11.14		(幼稚園から依頼のあった歌曲の墨譜を渡す) 墨譜 遊戯「風車」・唱(謳)歌「冬燕居」	式→幼
3	11.15		(和琴, 笏拍子借用願い, 伶員(ママ)(一兩名来園依頼)	幼→雅 (中村)
4	11.16	38	東京女子師範学校ヨリ皇后宮行啓ノ節ニ要スル歌 曲ノ墨譜取調及教授ノ為メ伶人派遣等ニ関スル件	式→幼 (中村)
5	1878 年 M11.2.23	14	日課奏楽ノ為幼稚園保母稽古所へ来所ノ件	雅→式
6	9.11	30	東京女子師範学校附属幼稚園保母及同校生徒へ唱 歌伝習ノ件	幼→式 (中村)
7	9.12		(これまで給人は保母に唱歌を伝習していたが, 毎週本校生徒並びに幼稚園生徒にも伝習する)	式→幼 (中村) →雅
8	9.16		(“ , 報酬金毎月拾円)	式→幼 (中村)
9	9.17		(稽古所において不都合の際は伝習無し)	雅→式
10	9.19		(東京女子師範学校附属幼稚園保母と生徒への唱 歌出張授業時間について, 毎月曜日 午前 11 時半 より 12 時迄, 毎木曜日 午前 11 時より 12 時迄)	式→幼 (中村) →雅
11	9.27		(唱歌出張授業時間についての了解)	幼→式 (中村)
12	11.30	40	欧州楽伝習ノ為幼稚園保母ヨリ伶人ヨリ教授方申 出ノ件	伶→式
13	1879 年 M12. 2. 7	17	東京女子師範学校幼稚園保育唱歌ノ件	式→雅
14	3.19	24	洋楽伝習ニ付伺ノ件	式→宮
15	3.20		(洋琴伝習の契約について)	雅→松野
16	5.22		(洋琴伝習人東儀季芳から辻則承へ変更)	式→宮
17	7.1	44	幼童運動戯伎譜ニ付幼稚園へ回附ノ旨届ノ件「民草」	雅→式

表 1 『雅楽録』に見られる「保育唱歌」の作成過程関係文書一覧（つづき）

文書番号	日付	号	記事	備考
18	9.16	63	東京女子師範学校ヨリ同校並ニ幼稚園所生徒へ唱歌伝習ノ為伶人出張方照会ニ対シ回答ノ件	式→幼
19	10. 1	53	東京女子師範学校幼稚園保母近藤演撰譜ノ育養唱歌訂正の儀依頼ニ任セ審査訂正ノ上返附ノ旨届ノ件	雅→式
20	10. 1		(保育唱歌の和琴の譜に加え箏の撰譜をする)	雅→式
21	11.17	7	幼稚園…(伶人の月給の件)	雅→式
22	12.23		東京女子師範学校附属幼稚園 伶人各所出張所ニ付諸向ヨリ贈金ノ件	雅→式
23	1880 年 M13. 2.23		(唱歌教授で出張した伶人へ給料を分与した)	雅→式
24	4.21		(楽舞大演習に幼稚園生徒の中から熟達しているものを加えたい)	雅→式
25	5. 3	12	現在ノ唱歌ハ総テ幼稚園ノ撰出ニシテ其ノ数モ少クナキニ付キ適当ノ歌章ヲ十(閏)程本寮ニ於テ至急撰定ノ上本課ヘ下付ノ旨開陳ノ件	雅→式
26	5.14	13	新楽唱歌講習ノ処不都合ニ付科目ニ組込ベキ旨開陳ノ件	雅→式
27	5.15		(“)	式→宮
28	5.18		(唱歌教授で出張した伶人へ給料を分与した)	雅(内)
29	5.20	15	東京女子師範学校幼稚園保育唱歌遊戲撰譜出来ノ件	雅→式
30	6. 4	3	唱歌伝習増(拾円から壹拾五円へ)	幼→式
31	6.28		(唱歌教授で出張した伶人へ謝金を分与した)	雅→式
32	10.30		春秋二季楽舞大演習ニ関スル件(四～十月) 墨譜 唱歌「君が代」	雅→式
33	1881 年 M14. 1.28		(保育唱歌撰譜出版の件)	伶→雅
34	1.31	2	東京女子師範学校依頼ノ唱歌譜出版ニ関スル件	雅→式
35	5.20	6	東京女子師範学校ヨリ皇后陛下行啓ノ際管弦合奏ニ付箏琵琶借用依頼届ノ件	雅→式

表1 『雅楽録』に見られる「保育唱歌」の作成過程関係文書一覧（つづき）

文書番号	日付	号	記事	備考
36	6.21	11	洋琴伝習当分休業ノ件	庶→式
37	6.27		（洋琴伝習は都合があって当分休業にする旨を松野クララに伝えること）	式→雅
38	1882 年 M15. 3.23	4	東京女子師範学校附属幼稚園保育唱歌撰譜ノ件 墨譜 唱歌「倭心」、唱歌遊戯「科戸の風」	雅→式
39	1883 年 M16. 2.21		（公立桃町女子小学校において保育唱歌を教授した）	雅→式
40	4.17		（小学唱歌集第三編並幼稚園唱歌集出版の運び付き保育唱歌から5,6曲を選んで送ってもらいたい）	伊澤修二→雅
41	4.20		（該当する唱歌を5,6曲選んで送る）	雅→伊澤修二
42	7. 7		（音楽取調掛より照会があり送った6曲が幼稚園唱歌第三編中に入り、横譜に直されて出版された。譜面の体裁が変わり差し支えはないか）	雅→式

作成：曾我芳枝

資料

『雅楽録』式部職楽部 宮内庁雅楽課書陵部所蔵（明治10年から明治16年）合計13冊

注)

- ・通しの番号は筆者によるものである。
- ・『雅楽録』の目次に無かった文書は筆者が要旨を（ ）内に現代文で書き記した。
- ・備考中の宮は宮内卿，式は式部寮，雅は雅楽課，伶は伶人，幼は東京女子師範学校附属幼稚園を省略したものである。また、矢印の左は発信者を右は受信者を示す。

出向き、保母だけでなく同校生徒や幼稚園生徒（幼稚園児のこと一筆者）にも教授（伝習）していたことが明らかである。

「文書番号7

〔是迄当寮給人ヨリ幼稚園保母唱歌伝習之处自今本校生徒へモ伝習ノ義御依頼ニ成度依而毎週本校並幼稚へ兩回時間宛給人出張候様仕申越趣致承知大ニ差支無之候案其筋之者へ相達置候間委細之義ハ当寮雅楽課へ御打合可有之候此段御回答候也

明治十一年九月 式部頭 坊城俊政

東京女子師範学校摂理 中村正直殿

追而報酬金十円毎月十円ツツ御差

別紙之通女子師範学校ヨリ通牒有之候ニ付差支義隙見込至急御申出有之候也

十一年九月十二日 本寮 庶務課 雅楽課御中」雅楽録，1878（明治11）年9月12日」

そして、文書番号10・1878（明治11）年から教授を受けた時間が分る。すなわち、1878（明治11）年九月頃は毎週月曜日の午前11時30分より12時までと、木曜日は11時から12時まで週二回で、合計すると一週間に90分間の授業が行われていた。

「文書番号10

〔雅楽課御中 当校唱歌授業時間 毎月曜日 午前十一時半ヨリ十二時迄 毎木曜日 午前

十一時ヨリ十二時迄」雅楽録，1878（明治11）年9月19日」

そして，謝礼金額は文書番号6・1878（明治11）年9月11日「東京女子師範学校附属幼稚園保姆及同校生徒へ唱歌伝習ノ件」，文書番号8・1878（明治11）年9月16日，文書番号22・1879（明治12）年12月23日「東京女子師範学校附属幼稚園伶人各所出張所ニ付諸向ヨリ贈金ノ件」，文書番号23・1880（明治13）年2月23日，文書番号28・1880（明治13）年5月18日，文書番号30・1880（明治13）年6月4日「唱歌伝習増」にあるように1880（明治13）年5月までは10円，同年6月からは「唱歌伝習増」として15円になっている。こうして「保育唱歌」の伝習回数が明治13年6月から増加しているが，それは後に述べる1880（明治13）年10月30日・31日に行われた「楽舞大演」実施の為に練習と関連があるのではないかと推測される。

「文書番号30

「兼テ本校生徒并附属幼稚園保姆ニ唱歌伝習御依頼シ末貴寮伶人御出張相成候ニ付聊報酬シ事迄ニ毎月金拾圓御出張シタ伶人ニ贈貽致来シ度漸次該傳習時間相増候ニ付イテ自今全月御出張シタ官七人一ヶ月金拾五圓其伶人ニ贈貽致度候条右御願承有之度此段申進候也東京女子師範学校摂理補 那珂通世 明治十三年六月四日式部頭坊城俊政殿」雅楽録，1880（明治13）年6月4日」

3. 近藤濱の撰譜における雅楽課の関与

撰譜には伶人だけでなく保母であった近藤濱も加わっていたことはすでに明らかにされているところだが（倉橋・新庄，1934），次の文書番号19・1879（明治12）年10月1日「東京女子師範学校幼稚園保姆近藤濱撰譜ノ育養唱歌訂正の儀依頼ニ任せ審査訂正ノ上返附ノ旨届ノ件」は次のように述べている。

「文書番号19

「明治十二年十月一日 幼稚園保姆近藤濱撰譜該園用ノ唱歌訂正ノ儀依頼ニ任せ別紙ノ通り審査訂正仕返附候ニ付此ノ段御届申上候

也」雅楽録，1879（明治12）年10月1日」

これをみると近藤の撰譜を「保育唱歌」として採用する際に，伶人たちの審査及び訂正を受けていたことが分る。こうして，伶人たちは保母の撰譜にも関係していたのである。

4. 「保育唱歌」出版の件

以下は，文書番号25・1878（明治13）年5月3日「現在ノ唱歌ハ総テ幼稚園ノ撰出ニシテ其ノ数モ少ナクナキニ付キ適當ノ歌章ヲ十（関）程寮ニ於至急撰定ノ上本課へ下付ノ旨開陳ノ件」の文書である。

「文書番号25

「明治十三年五月三日 即今相用候唱歌ハ総テ幼稚園ノ撰出ニシテ其数モ不多候処追々傳習願出且近日東京府ヨリ之依頼モ有之旁適當ノ歌章十関程本寮ニ於テ至急御撰定本課へ御下付相成候様致度此段開陳仕候也」雅楽録，1880（明治13）年5月3日」

この文書から伶人たちは，東京府からの依頼を受けて東京女子師範学校の「保育唱歌」を参考とするために出版したいと考えていたことが分る。しかし，すぐには実現しなかったようである。それは，次の文書番号33・1881（明治14）年1月28日「（保育撰譜出版の件）」に述べられているが，1881（明治14）年に一等伶人から自費でも「保育唱歌」を出版したいという願いが出されていることから推察されよう。

「文書番号33

「明治十年東京女子師範学校ヨリ依頼ニテ續々撰譜相成候保育唱歌之儀該校及幼稚園ニ於イテ追々盛大ニ相趣且他ノ一二府縣ニ於テモ学校ニ相用候趣伝承仕候然ルニ右譜卒ハ卒所ヨリ該校江送付ノ一卒ヲ以テ各生徒書写致候儀ニ付間々誤写有之夫カ爲椀音上ニ紊乱ヲ生シ不都合不少候依テ當初ヨリ昨年中撰譜之分彫刻シー小卒ニ仕立需求者ニ相與へ候者書写ノ勞ヲ除キ随而誤写ノ弊害モナシ之儀ト思考仕候ニ付私力ヲ以テ右彫刻仕度此段相伺候也 卒文女子師範学校へハ兼而照会仕候処該校ニ於テハ差支無之趣ニ御座候間此段申上

置候 明治十四年一月二十八日 一等伶人
雅楽課 御中] 雅楽録, 1881 (明治 14) 年 1
月 28 日]

そして, 文書番号 34・1881 (明治 14) 年 1 月 31
日「東京女子師範学校依頼ノ唱歌譜出版ニ関スル
件」として雅楽課から宮内卿宛に「保育唱歌」の
出版伺いが出されている。

「文書番号 34

[明治十四年一月三十一日 雅楽課 別紙一
等伶人ヨリ女子師範学校依頼保育唱歌譜出版
致シ度伺之趣御差問之筋無之相考候間御允相
成可然哉此段奉伺候也] (雅楽録, 1881 (明
治 14) 年 1 月 31 日]

その後文書番号 40・1883 (明治 16) 年 4 月 17
日, 文書番号 41・1883 (明治 16) 年 4 月 20 日, 文
書番号 42・1883 (明治 16) 年 7 月 7 日と, 出版に
関する文書があったが, それは「保育唱歌」の出
版についてではなく, 音楽取調掛が出版する「小
学唱歌集第三編並幼稚園唱歌集」に数曲の「保育
唱歌」が採用されて出版されるという文書であっ
た。因みに「保育唱歌」が出版されたのは 1886
(明治 19) 年になってからのことである^{注 9)}。

このころ文部省音楽取調掛から 1881 (明治 14)
年から 1887 (明治 20) 年までに「小学唱歌集」(3
冊), 「幼稚園唱歌集」(1 冊) が相次いで洋楽譜付
き歌集として出版されている。これらのことから
文部省音楽取調掛長であった伊澤修二の洋楽普及
への意図が強く働いていたと考えられる (山住,
1967)。

IV 『雅楽録』に見られる「唱歌遊戯」 の成立過程

1. 『雅楽録』に記載の唱歌遊戯

『雅楽録』には唱歌遊戯の作品 3 曲の記録があ
る。それは A (遊戯)「風車ノ歌」1877 (明治 10)
年 11 月, B (遊戯・幼童運動戯伎譜)「民草」
1879 (明治 12) 年 7 月, C (遊戯・盤渉調律旋)
「科戸ノ風」1882 (明治 15) 年 3 月である (図 1
参照)。このように A「風車ノ歌」, C「科戸ノ風」
については歌詞と雅楽譜だけであった。「科戸ノ

風」は撰譜した時点では遊戯であった。芝祐泰が
まとめた「保育並遊戯唱歌の撰譜」をはじめ, 平
出久雄の「覚え書」には唱歌となっているが, 撰
譜した時点では唱歌遊戯だったことが判明した。

次に B「民草」についてみると, これは図 1 に
みられるように振り付けが記載されていた^{注 10)}。文
書番号 17・1879 (明治 12) 年 7 月 1 日「幼童運動
戯伎譜ニ付幼稚園へ回附ノ旨届ノ件」は次のよう
であった。

「文書番号 17

[幼稚園ヨリ兼テ撰譜依頼ノ遊戯歌へ戯伎配
附之儀, 猶亦依頼ニ任セ, 別紙之通, 該園へ
回附仕候ニ付, 此段御届仕候也] 雅楽録,
1879 (明治 12) 年 7 月 1 日]

この別紙に運動戯伎譜「民草」が添付されてお
り, これらの記録から伶人たちは振り付けにも関
与していたことがわかった。これまでに伶人たちが
遊戯の振り付けに関わっているのではないかと
言われてきたが^{注 11)}, 今回そのことが文書 17 の存
在により「民草」の戯伎譜を作成しているという
ことが明確になった。従って伶人たちは振り付け
にも関与していたことが確かなものになった。

2. 「楽舞大演習会」における「運動唱歌」

「秋季楽舞大演習会」1880 (明治 13) 年 10 月
30・31 日に東京女子師範学校の生徒及び幼稚園生
徒が関わっていたことが記録されていた文書があっ
た。

「文書番号 24

[明治十三年四月二十一日 一二等伶人 雅
楽課 庶務課 兼ねて伶官ヨリ幼稚園生徒へ
伝習候唱歌之義追々熟達之者出来既ニ過日学
習院ニ於テ試験モ有之自然学校一般之科目ニ
相立可申ニ付此度之大演習ヨリ其目ヲ加ヘ可
申哉ト存候右御允許相成候ハ、兼テ幼稚園教
官ヨリ依頼之趣モ有之候ニ付同園生徒熟達之
輩相撰当日演習ニ差加申度此段仰高裁候也] 雅
楽録, 1880 (明治 13) 年 4 月 21 日]

この文書によって東京女子師範学校の生徒及び幼
稚園生徒が「楽舞大演習会」に関わっていたことが
うかがわれる。以下はその演習会の次第である。

「明治十三年十月三十日

樂舞大演習次第

本日午前九時雅楽課長属官等稽古所へ参集

同午前十時鳴鐘伶人伶員臨場

次課長属官著床

先神樂歌 篠波

次管弦 雙調

席田

柳花苑

酒胡子

午一二時畢テ各退場

午後二時鳴鐘伶人伶員臨場以下次第午前ノ如

シ

A 遊戲「風車ノ歌」1877 (明治10) 年11月

B 遊戲・幼童運動戲伎譜「民草」1879 (明治12) 年7月

C 遊戲・盤涉調律旋「科戸ノ風」1882 (明治15) 年3月

図1 『雅楽録』に掲載の唱歌遊戲

舞樂 振鉾

五常樂 皇仁庭

太平樂

洋琴 四曲

此間女子師範学校生徒并幼稚園生徒運動唱歌

歐洲樂

君が代 クイキマーチ セビリユダビリ
 ヤボルカマジユルカ チロリアンエコセ
 レナード エクリプスボルカ ラトリユ
 イデスマルシュ

右更迭之ヲ奏ス午後五時半ニテ退出

同三十一日

次第 前日ニ同シ

大和歌

倭儼

管弦 盤渉調

青海波 越天樂殘樂三反

千秋樂

右午前十時ニ始リ午十二時ニ終ル

儼樂

央官樂 狛鉾

陵王 納曾利

長慶子

洋琴 四曲

此間女子師範学校生徒并幼稚園生徒運動唱歌

歐洲樂

君ガ代 ラシアンペーノワーズ ソッ
 チーシ シネスタボルカ マシユルカ
 プリュネッタ レドワーランクリューム
 ボルカ レボルドトリヨンヌ

右午後二時ニ始リ同五時ニ終ル（下線を施した部分は付箋に記されたもの一筆者）雅楽録，1880（明治13）年10月30日以降」

このことは、今まで明らかにされていなかったことなので慎重に資料を検討する必要がある。実際、先行文献や研究にそのような記録は見受けられなかった。筆者もこれまでに当時の新聞をはじめ様々な資料に当たったが、東京女子師範学校の生徒及び幼稚園生徒が演技をしたという記録は認められなかった。そのため今回「此間女子師範学校生徒并幼稚園生徒運動唱歌」という記録を目にし、

書陵部でこの前後の文書も併せて検討した。

式部寮では1869（明治12）年より春と秋に伶人たちの演奏発表の場として「楽舞大演習会」を催し、これを一般に公開するようになっていた。それは芝祐泰によると「伶人精勵の実態を忝に示す為」（芝，1956，p.54）を趣旨としていて、「この雅楽稽古所の楽舞大演習は、大正十二年九月一日（一九二三）の関東大震災にて旧牛込見附内の雅楽稽古所が灰燼に帰するまで継続された行事で、現代行われて居る文部省主催の芸術祭行事の先鞭をつけていたもの」（芝，1956，p.54）であると述べられているように「楽舞大演習会」は伶人たちの鍛錬の成果と技術の高さを披露する場であったようである。

『雅楽録』における「楽舞大演習」に関する文書を詳しく検討した結果、以下のようなことが判明した。まず文書番号24・1880（明治13）年4月21日は「楽舞大演習ニ保育唱歌ヲ加エ幼稚園生徒を参加サセル件」では幼稚園の教官から依頼もあり同園生徒のうち熟達している者を選んで当日演習に参加させたいとの申し入れが伶人たちから式部寮へあった。これは上申されたが同年4月24日・25日の「楽舞大演習」の次第をみると記録されておらず、結局このときは取り上げられなかったとみられる。この点については芝も「この案は成就しなかった如く、其の曲目を得ないが」（芝，1956，p.79）と記している。

しかし、「秋の楽舞大演習」（10月30日・31日）の次第には、前出のように下線部の記述が付加されていた。両日とも次第の洋琴四曲と欧州樂が掲げられている箇所間の下部に付箋が貼り付けてありこれに朱書で「此間女子師範学校生徒并幼稚園生徒運動唱歌」^{注12)}と記されていた。筆者はこの記事に注目し1880（明治13）年の秋に行われた「楽舞大演習会」で東京女子師範学校の生徒及び幼稚園生徒が運動唱歌を実施したのではないかと考えるものである。

『雅楽録』には、1880（明治13）年「春の楽舞大演習」の次第と演奏者の記載が一回だけある。他の年に関しても同様であったが、1880（明治13）年「秋の楽舞大演習」の次第は二ヶ所（10月28

日と30日の部分)に記録されていた。第一回の次第には「本日午前九時雅楽課長属官等稽古所へ参集 同午前十時鳴鐘伶人伶員臨場…(後略)」^{注13)}とあるが、実施後の記録かどうかが問題である。これは、実施日の数日前(10月28日)の部分に綴られていたため、明らかに実施以前のものとみられる。だが、第二回目の次第の方は10月30日以降の箇所に綴られていて、しかも付箋に朱書きされているので、これは実際に実施されたものと考えられる^{注14)}。

また、実施前の文書には次のような内容の記録があった。

- ①10月20日、本月30日31日に楽舞大演習を執行するという伺いが雅楽課・庶務課から式部寮へ出される。
- ②10月26日、楽舞大演習曲目ならびに配役を記す。
- ③10月27日、丸岡式部助から宮内省書記官へ10月30日・31日に雅楽稽古所にて「楽舞大演習」をするという知らせが出る。
- ④10月28日、式部寮から各局課へ「楽舞大演習次第」を知らせる。(第一回目の次第一筆者)
- ⑤10月30日、庶務課から儀式課へ「楽舞大演習」を知らせる。

そして、この次に綴じ込まれた文書の「楽舞大演習次第」に朱書の短冊が付箋として貼り付けてあった。(第二回目の次第一筆者)つまり、二回目の次第は30日以降綴じられたものであると考えられる。

以上、実施前の準備段階における5件の日程記録及び朱書の短冊が付箋として貼り付けられてあったという事実を以って、「女子師範学校生徒并幼稚園生徒運動唱歌」が「楽舞大演習」で実施されたのではないかと判断した。ただ、どのような運動唱歌(唱歌遊戯)を実施したのかについては記述がなかったため、ここでは明らかにすることはできない。

V おわりに

千数百年以上の伝統を誇る雅楽が、明治初期に幼稚園教育を移入した際そこで用いられるべき唱歌遊戯の作成に大きく関わっていたことは、幼児教育の近代化という観点から大変興味深い事実である。

そして、本研究で雅楽課の公文書『雅楽録』の文書を検討することによって、これまで雅楽課の伶人たちが東京女子師範学校附属幼稚園で指導された唱歌及び遊戯曲を作ったと言われてきたことの内容が裏付けられ、伶人たちが果たした役割や「保育唱歌」作成に関する新たな事実を知ることができた。

まず、「保育唱歌」について

- (1) 伶人たちの教授場所、時間、謝金額のこと
- (2) 保母近藤濱の撰譜唱歌の審査があったこと
- (3) 「保育唱歌」出版の計画があったがすぐには実現しなかったことを明らかにすることができた。

次に唱歌遊戯については

- (1) 伶人たちは作曲だけでなく「民草」の振り付けもしていたこと
- (2) 「科戸の風」は本来唱歌遊戯だったこと
- (3) 1980(明治13)年10月30・31日の「楽舞大演習会」において運動唱歌として東京女子師範学校生徒および幼稚園生徒による「保育唱歌」の遊戯の発表が行われたのではないかということを確認することができた。

以上のことから雅楽課の伶人たちは「保育唱歌」の撰譜だけでなく、唱歌遊戯の振り付けやその指導にも関与していたということを明らかにすることができた。

なお、今後は「保育唱歌」の遊戯、特に『雅楽録』に戯伎譜が記載されていた「民草」において、雅楽の舞である舞楽がどのように影響したかについて検討していきたい。

謝 辞

本研究をすすめる上で、懇切丁寧な御指導を賜った中京大学名誉教授、木村吉次先生に深く感謝申し上げます。

表2 雅楽課に関する参考年表 1870 (明治3) 年～1883 (明治16) 年

年	雅楽課	東京女子師範学校	松野クララ	伊澤修二	音楽取調掛	体操伝習所	備考
1870 (明治3)	宮内省太政官の中に雅楽局 雅楽局を設置 (9)						
1871 (明治4)	雅楽局を廃し式部寮 雅楽課とする (9)						
1872 (明治5)							8. 学制発布 (6)
1873 (明治6)	雅楽の伝習を一般にも許 可 (9)						
1874 (明治7)	欧州楽伝習の達し人発令 (7)			3. 愛知師範学校長補 (幼兄に唱歌嬉戯を 行わせる) (4)			9. 田中不二麿 文部大輔とな る (2)
1875 (明治8)	吹奏楽器一式購入 (7)	11. 東京女子師範学校 開設 (4)		6. 愛知師範学校長 (4) 7. 渡米、ブリッジウオー ター師範学校入学 (2)			
1876 (明治9)	正式に洋楽(吹奏楽)の伝習 はじまる 4月5日付けで海 軍省・式部寮両者とフェント ンの間に一年間の契約が交 わされる (7)	7. 「幼稚園記」刊 (5) 11. 東京女子師範学校 附属幼稚園開設 (4)	8. 米日 (7) 9. 東京女子師範学校 で英語を教える (7) 11. 東京女子師範学 校附属幼稚園の首席 保母に就任 (7)	グラハム・ペルについ て視話法を学び、メー ソンについて音楽を研 究する (2)			
1877 (明治10)	雅楽局京都出張所を廃す(9) 11. 東京女子師範学校摂理中 村正直より「幼動遊戯及び謳 歌」撰譜と俗人派遣の依頼あ り (3)	11. 摂理中村正直から 式部寮に「幼動遊戯及 謳歌」撰譜と俗人派遣 依頼 (3) 11. 皇太后と皇后を迎 えて開園式 (5)	11. 唱歌、遊戯のビ アノ伴奏をする (7)	7. 同校卒業 (2) 10. ハーバード大学入 学 (2)			

表2 雅楽課に関する参考年表 1870 (明治3) 年～1883 (明治16) 年 (つづき)

年	雅楽課	東京女子師範学校	松野クララ	伊澤修二	音楽取調掛	体操伝習所	備考
1878 (明治11)	バリ万博に楽器・楽譜を出品(9) 11. ピアノの正式学習の要望 上申書提出される(認可されない)(7)	6. 保母練習科を同校幼稚園内に開設(5) 10. リーランド、伊澤東京女子師範学校視察(1) 11. 東京女子師範学校に新設体操術を課す(1)		4. 音楽取調見込書を文部大輔に提出(2) 5. 帰国(2) 6. 東京師範学校雇(2) 8. 文部省学務課兼務(2) 10. 東京師範学校長補(2) 12. 体操伝習所主幹兼務(2)	4. 「音楽取調につき上申書」(目加田、伊澤)(1) 6. 「唱歌取調書」上申(伊澤)(1)	6. リーランド来日(8) 9. 体操取調掛設置(8) 10. 体操伝習所設置公示(1) 11. 体操伝習所規則制定(1) 12. 体操伝習所各府県に生徒公募通達(1)	
1879 (明治12)	3. 2度目のピアノ学習要望上申書が提出される(認可される)(7)	11. 関信三死去(5)	3. 雅楽課の伶人らにピアノの指導をする(7)	3. 東京師範学校長(2) 10. 体操伝習所主任解任、音楽取調御用掛兼務(2)	3. 音楽伝習所設置案(伊澤)(1) 10. 音楽取調掛設置(1)	4. 体操伝習所授業開始(8) 11. 体操伝習所体操演習にピアノを使用(8)	9. 「教育令」公布され、唱歌・体操など随意科として扱われる(8)
1880 (明治13)	4. メーソン雅楽課を訪れる(7)	4. メーソン同校で授業(7) 5. 中村正直摂理を辞す 福原美静摂理となる(7) 7. 保母練習科を廃し幼児保育法は本校の過程に編入(5) 10. 秋季楽舞大演習で幼動遊戯をする(3) 11. 近藤濱退職(4)	2. 東京女子師範学校附属幼稚園の正規保母を辞任、員外保母になる(4) 3. 体操伝習所のピアノ奏者としての地位につく(4)		3. メーソン来日(1) 9. 音楽伝習規則制定(1) 10. 伝習人の入試および授業開始(1)	3. 楽人一名(松野)を雇い入れて体操演習の間ピアノ(洋琴)を合奏(4) 9. 体操伝習所兵式体操を新しく課目に採用(11月授業開始)(8)	3. 田中不二磨司法卿転出(2) 12. 改正教育令の公布(6)

表2 雅楽課に関する参考年表 1870（明治3）年～1883（明治16）年（つづき）

年	雅楽課	東京女子師範学校	松野クララ	伊澤修二	音楽取調掛	体操伝習所	備考
1881（明治14）	6. 松野クララからのピアノ伝習休業とする（3）		女子学習院でピアノ教授（7） 6. 雅楽課伶人達へのピアノ伝習休業（3）	10. 音楽取調掛長（2）	9. 「唱歌掛図」（1） 11. 「小学唱歌初編」（1）	7. リーランド帰国（8）	
1882（明治15）		8. 東京師範学校、東京女子師範学校本科と同附属小学校教授細目編成（1）			7. メーソン帰国（7）	6. 「新撰体操書」（8）	
1883（明治16）					2. フランツ・エッケルト兼務（1） 3. 「小学唱歌集2編」（1）	5. 文部省体操伝習所に撃剣、柔術の利害調査を命ずる（8）	

作成：曾我芳枝

※ 年表作成にあたり以下の資料を参考にした。また、事項始めの数字は月を示し、事項末の（ ）内の数字は下記の参考資料の数字を示す。

1. 江崎公子（1982）Calisthemic Song について－明治初期の唱歌遊戯研究序説一、国立音楽大学研究紀要 17：37-54.
2. 上沼八郎（1962）伊澤修二、吉川弘文館：東京。
3. 宮内庁楽部書陵部所蔵（1872～1883）雅楽録。
4. 文部省年報（第二年報～第十年報）（1964）宣文堂書店：東京。
5. 文部省（1979）幼稚園教育百年史、ひかりのくに株式会社：大阪。
6. 仲 新・伊藤敏行編（1984）日本近代教育史、福村出版：東京。
7. 中村理平（1993）洋楽導入者の軌跡－日本近代洋楽史序説－、刀水書房：東京。
8. 竹之下休蔵・岸野雄三（1959）近代日本学校体育史、東洋館出版社：東京。
9. 湯浅公浩編（2004）別冊太陽、雅楽、平凡社：東京。

注

- 注 1) 1874 (明治 7) 年 3 月に愛知師範学校長補となった伊澤修二は、唱歌遊戯教育の必要性を「愛知師範学校年報」(明治 8 年 2 月 26 日付、『文部省第二年報』)に記している。「唱歌ハ精神ニ娯楽ヲ与ヘ運動ハ支体ニ爽快ヲ与フ此二者ハ教育上并ヒ行レテ偏廃ス可ラサルモノトス而シテ運動ニ数種アリ方今体操ヲ以テ一般必行ノモノト定ム然レトモ年齒幼弱筋骨柔軟ノ幼生ヲシテ支体ヲ激動セシムルハ其惡却少ナカラスト是レ有名諸家ノ確説ナリ故ニ今下等小学校ノ教科に嬉戯ヲ設ク」
- 注 2) ただし、『幼稚園記』附録は Peabody, E. and Mann, H. (1869) Kindergarten guide. J. W. Schemerhon & Co.: New York. の抄訳である。
- 注 3) 中村の意見は『文部省第五年報』に「緊急ノ校務ニ関スル意見」として次のように記されている。「唱歌ハ緊急ノ一教科ニシテ女子ノ教育ト幼稚園幼稚ノ保育ニ至リテハ殊ニ諸教科中ノ貴重ナルモノナリ… (以下略)」p. 393.
- 注 4) 平出久雄は雅楽研究家である。『田邊先生還暦記念東亞音楽論叢』(田邊先生還暦記念論文集刊行会編)で『『保育唱歌』覚え書一附・国歌『君が代』小論考一』を著し、その中で「明治時代の雅楽課が遺した数々の業績のうち『保育唱歌』に関する仕事がある」p. 603 と述べている。しかし、その資料は僅少であるが「近年一・二の雅楽家の御蔵書の整理中若干これに関する資料を発見したので、この記念すべき本論叢に一部資料を開陳し… (略)」p. 604 と述べ、「保育唱歌」曲目表を表している。
- 注 5) 芝祐泰の論文は宮内庁所蔵の公文書と芝家蔵の資料に基づいて書かれている。
- 注 6) 中村理平は幕末・明治期の洋楽導入について研究し『洋楽導入者の軌跡ー日本近代洋楽史序説一』を著した。その中で彼は、式部寮伶人の欧州楽導入の章で「保育唱歌」について述べている。彼は洋楽導入を異文化交流史という視点から捉えた先駆的な研究者であると言われている。
- 注 7) 2001 年 3 月情報公開法が施行された。
- 注 8) 中村理平 (1993) 洋楽導入者の軌跡ー日本近代洋楽史序説一。刀水書房：東京。によれば、「音楽取調掛が最初に行った伝習人の募集に応じて、明治 13 年 10 月 5 日一般の応募者とともに、洋楽協会の会

員のうち伶人の奥好義、安部季功、辻則承、林広継、上真行、御用掛小篠秀一が真先に応募したことは良く知られている。」p. 507. と書いているように、伶人たちと音楽取調掛の関係は密接だったようである。

- 注 9) 「保育唱歌」が『幼稚園唱歌』(鴻名社：東京)として、1887 (明治 19) 年 9 月に出版された。しかし、「保育唱歌」の歌詞のみ記載されているもので、墨譜(楽譜)は掲載されていない歌集であった。このことは、「保育唱歌」が全国に広まらなかった一因と思われる。
- 注 10) 「民草」は先に 1878 (明治 11) 年 6 月に唱歌として上申されている。
- 注 11) 福原昌恵 (1991) 草創期幼稚園における唱歌遊戯 [1] 「民草」の身体活動とその変遷、新潟大学教育学部紀要 33 (1): 1-11, によると『『民草』は着想を原曲に依拠しつつ舞楽的な手法による振付であること』p. 3 と、雅楽課が関わっていると記している。しかし、伶人の誰が戯伎譜を作成したのかについては明らかになっていない。
- 注 12) 雅楽録。式部職楽部。明治 13 年 10 月 30 日・31 日 (二つめの次第)。
- 注 13) 雅楽録。式部職楽部。明治 13 年 10 月 30 日・31 日 (一つめの次第)。
- 注 14) そこで宮内庁書陵部の司書に『雅楽録』は慣例としてどのような記述方法をとるものかを確認した。それによると『雅楽録』は実施記録であるが、例年行なわれるものもあるので、実施前に書かれ、当日変更があった場合や付け加える場合は朱記などで後から書き加えている、との回答を得た。

文 献

- 浅香 淳 (1983) 音楽教育の歴史。音楽之友社：東京。
- 江崎公子 (1982) Calisthenic Song についてー明治初期の唱歌遊戯研究序説一。国立音楽大学研究紀要 17: 37-54.
- 江崎公子編 (1991) 音楽基礎文献集 15 巻。大空社：東京。
- 江崎公子編 (1991) 音楽基礎文献集別巻。大空社：東京。
- 福原昌恵 (1991) 草創期幼稚園における唱歌遊戯 [1] 「民草」の身体活動とその変遷。新潟大学教育学部紀要 33 (1): 1-11.

- 藤田芙美子（1978）保育唱歌研究－フレーベル式幼稚園唱歌遊戲移入の経過を中心として－. 国立音楽大学創立五十周年記念事業企画委員会，創立五十周年記念論文集：329-369.
- 平出久雄（1943）「保育唱歌」覚え書，田邊先生還暦記念東亞音楽論叢．田邊先生還暦記念論文集刊行会編，山一書房：東京，pp.603-641.
- 伊吹山真帆子（1979）保育唱歌について．東洋音楽研究 44: 1-26.
- 市川八十吉（1886）幼稚園唱歌．鴻明社：東京．
- 今井民子（1981）フレーベルの歌遊び－その特質とわが国の幼児音楽教育に及ぼした影響について－．音楽教育学 13: 2-13.
- 上沼八郎（1962）伊沢修二．吉川弘文館：東京．
- 倉橋惣三・新庄よし子（1934）日本幼稚園史，東洋図書：東京．
- 桑田親五訳（1876-1878）幼稚園．文部省：東京．
 〈Ronge, J. and Ronge, B. (1875) A practical guide to the English kindergarten: A. N. Myers & Co.: London.〉
- 文部省（1979）幼稚園教育百年史．ひかりのくに株式会社：大阪．
- 文部省年報（第二年報～第十年報）復刻版（1964），宣文堂書店：東京．
- 仲 新・伊藤敏行編（1984）日本近代教育史．福村出版：東京．
- 中村理平（1993）洋楽導入者の軌跡－日本近代洋楽史序説－．刀水書房：東京．
- 芝 祐泰（1956）保育並遊戲唱歌の撰譜（江崎公子編（1991）音楽基礎文献集 15 巻．大空社：東京）．
- 白川蓉子（1975）明治期における「唱歌」と体操科「遊戲」の特質．教育学研究 42(1): 31-40.
- 関 信三訳（1876）幼稚園記，東京女子師範学校：東京．
 〈Doai, A. (1872) The Kindergarten. E. Steiger: New York.〉
- 関 信三訳（1877）幼稚園記，附録．東京女子師範学校：東京．
 〈Peabody, E. and Mann, H. (869) Kindergarten guide. J. W. Schemerhon & Co.: New York〉
- 竹之下休蔵・岸野雄三（1959）近代日本学校体育史．東洋館出版社：東京．
- 外山友子（1978）幼稚園唱歌事始．東洋音楽研究 43: 1-51.
- 上田正昭（2004）雅楽と日本の文化，雅楽．平凡社：東京，pp.2-3.
- 山住正巳（1967）唱歌教育成立過程の研究．東京大学出版会：東京．
- 安田 寛・赤井 励・関 庚燦（2000）原典による近代唱歌集成，誕生・変遷・伝播，解説・論文・索引．ビクターエンタテインメント：東京．
- 湯浅公浩編（2004）別冊太陽，雅楽．平凡社：東京．
- 湯川嘉津美（2001）日本幼稚園成立史の研究．風間書房：東京．

（平成 19 年 3 月 9 日受付）
 （平成 20 年 5 月 8 日受理）